



人と化学の未来をめざして
マナック株式会社

2015 CSR報告書

編集方針

“生命の源”と言われる海水の資源から生まれたマナックにとって、地球環境を守ることは使命のひとつです。ステークホルダーはもちろん、地域社会の人々に信頼される企業を目指し、責任ある企業活動を行っています。

本報告書では、「マネジメント」、「環境への取組み」、「安全衛生への取組み」、「社会との関わり」の4部構成で、持続可能な社会の実現に貢献するための様々な取組みをご紹介します。

今後とも、CSR活動に取り組むとともに、皆さまとのコミュニケーションを図り、よりわかりやすい編集を目指していきます。

■ 報告対象期間

2014年4月～2015年3月

■ 報告対象組織

マナック株式会社を対象としています。なお、マナックグループの概要、財務ハイライトはマナックグループ連結の数値です。

■ 参考としたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン（2012年版）」GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第3.1版（G3.1）」

CONTENTS

編集方針	1
ごあいさつ	2
マナックグループの概要	3
マネジメント	
企業理念	4
経営理念	4
事業活動	4
コーポレート・ガバナンス	5
内部統制	5
リスク管理	6
コンプライアンス	6
環境への取組み	
マテリアルフロー	7
環境マネジメントシステム	7
省エネルギー	8
地球温暖化防止	9
廃棄物削減	9
化学物質の排出管理	10
環境への配慮	10
安全衛生への取組み	
安全衛生管理体制の確立	11
健康の保持増進	12
心の健康づくり	12
保安・防災	13
化学物質安全・物流安全	13
社会との関わり	14
薬事功労者表彰 受賞	15

お問い合わせ先

マナック株式会社（管理部 総務）

TEL：（084）954-3330

FAX：（084）953-8523

E-mail：info@manac-inc.co.jp

スペシャリティーケミカルをベースに 社会の進化・発展に貢献します。

マナックのルーツは、江戸時代から瀬戸内の海で行われていた製塩業にさかのぼります。1948年（昭和23年）の設立以来、地元の美しい海から生まれた技術を進化させ、世界に通用する臭素化、ヨウ素化の化学合成技術を確立しました。

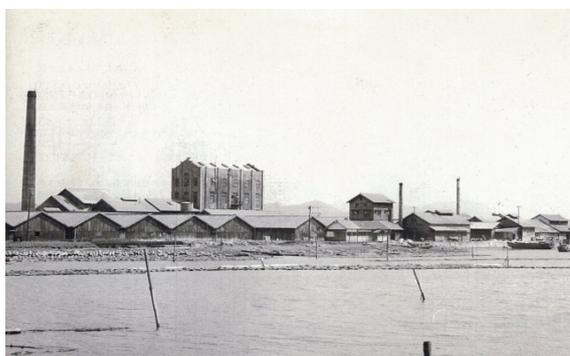
こうした技術開発力を強みとして、提案型研究開発事業を推進するマナックでは、次世代のエレクトロニクス素材、医薬品原料、情報記録材料など、先端技術産業からの高度なニーズ、潜在的なニーズに応えるため、さまざまな製品を展開しています。

マナックは「社会的存在価値のある製品を提供し続ける」という確固たる信念のもと、お客様の視点に寄り添ったマーケット重視の事業をスピード感を持って展開してまいります。

新しい機動的な組織体制のもとで、これからもファインケミカルのニッチな分野をターゲットに、マナックにしか実現できない製品を追究し続けてまいります。

代表取締役社長

杉之原 祥二

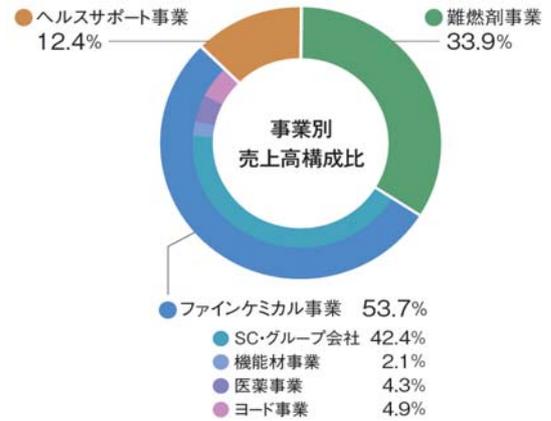


松永の地 塩業からマナックが生まれました

マナックグループの概要

■会社概要 2015年3月31日

商号	マナック株式会社
設立	1948年(昭和23年)5月
従業員数	177名(グループ従業員数304名)
資本金	17億5,750万円
証券コード	4364



■事業所

本社・福山工場	広島県福山市箕沖町92番地
東京支社	東京都中央区日本橋3丁目8番4号
大阪営業所	大阪市中央区北浜3丁目5番22号
研究所	広島県福山市箕沖町92番地
郷分事業所	広島県福山市郷分町950番地の1

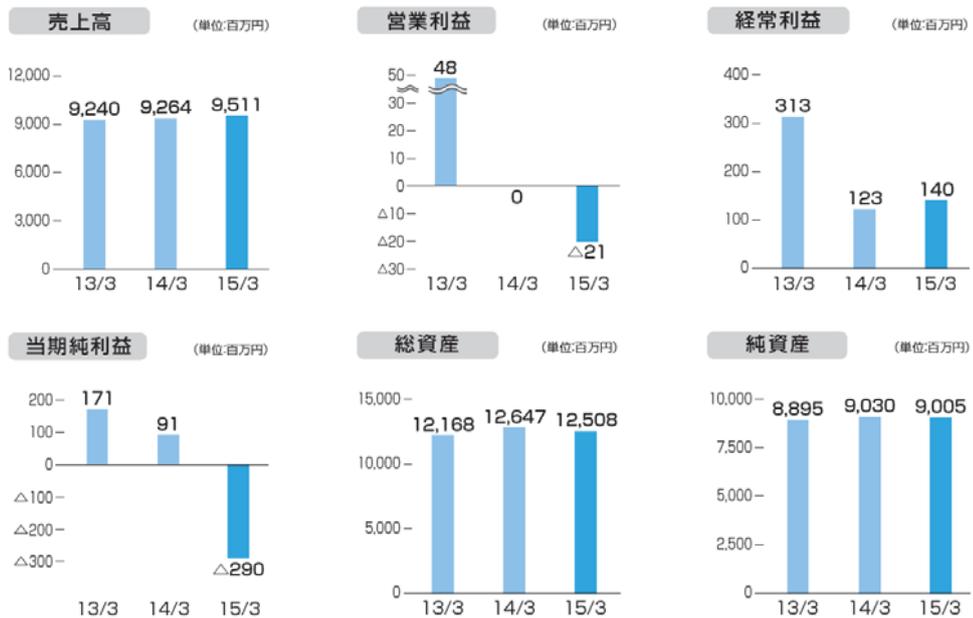
■子会社

八幸通商株式会社
南京八幸薬業科技有限公司
エムシーサービス株式会社

■関連会社

ヨード・ファインケム株式会社

■連結決算ハイライト



マネジメント

■企業理念

『スペシャリティーケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献する』
～進化する技術、そして進化する人間をめざして

■経営理念

- 1 「地球環境・人間社会に信頼と安全・安心・感動を発信する会社」をめざす
- 2 英知と勇気をもって能力を最高に発揮し、企業価値の最大化をめざす
- 3 明日の未来社会からも注目される会社をめざし、常に『革新』

■事業活動

外的な環境としては円安の影響が最も大きなものです。一昨年は1ドル100円前後で推移していた為替も昨年は110円～120円の円安となり、受託産業であるわれわれにとってもその影響は顕著なものとなりました。

一方で円安による影響が底を打った感も少しずつ出てきており、お客さまも円安に対応した事業体制を整える中、4月以降の当社の事業にも明るい兆しが見えてくるものと期待しております。

グループ内では、連結子会社で受託しておりました大型医薬品の開発品が、年初にお客様の都合で開発中止となったことが大きな影響を及ぼし、連結決算の利益面を圧迫することとなりましたことをお詫びいたします。

円高の時代に比べ海外品との価格競争力は出てきましたが、海外品の品質も上がってきているため、気を抜くことはできません。「メイドインジャパン」だから優位だという考えは捨て、日本の強い分野、大手の参入していないニッチな分野で、マナックの力を発揮していきたいと考えております。

■グローバル・マナック



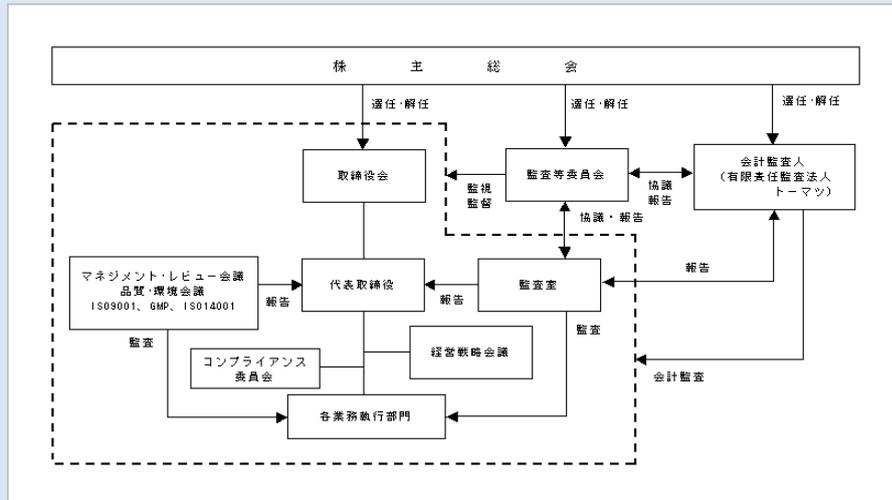
- ・「先を見据える」
- ・売上高から「利益を積上げる」へ
- ・国内市場+海外から「国際市場」へ
- ・モノづくりから「売れモノづくり」へ

マネジメント

■コーポレート・ガバナンス

株主の皆様並びに社会に対する責任を自覚し、経営資源の最適活用を図り、長期的、継続的な株主価値の最大化を実現するとともに、社会規範に沿った事業活動を行い、コーポレート・ガバナンスを充実させていくことが経営上の最重要課題のひとつと位置付けています。

■コーポレート・ガバナンス体制



■内部統制

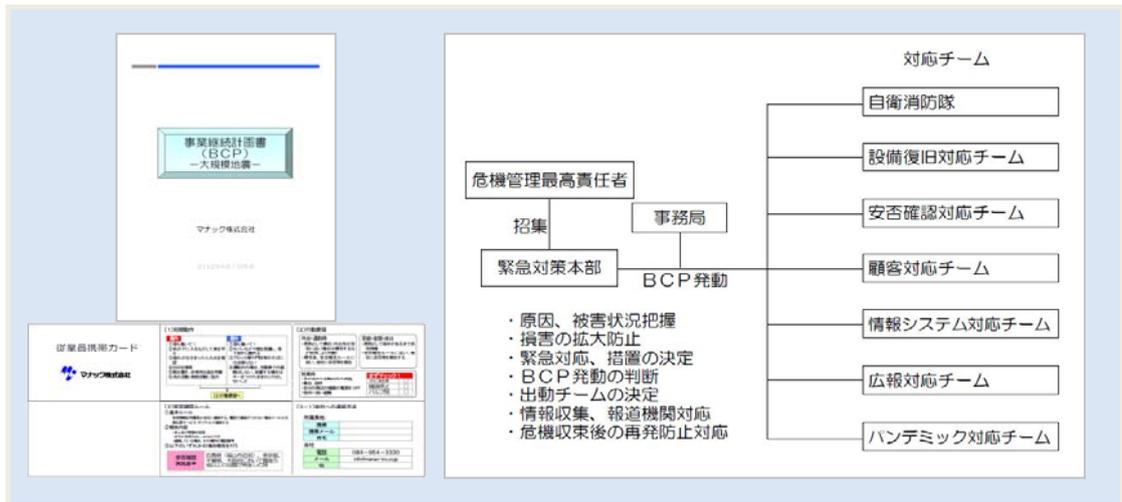
「業務の適正を確保するための体制」を定め、会社法に基づく内部統制システムを構築しています。また、金融商品取引法に基づく財務報告の信頼性を確保するために、有効な内部統制システムの構築と評価を行っています。

- 一. 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
- 二. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
- 三. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
- 四. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- 五. 当社及びその子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制
- 六. 監査等委員がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及び当該使用人の取締役からの独立性に関する事項
- 七. 取締役及び使用人が監査等委員に報告するための体制その他の監査等委員への報告に関する体制及びその他監査等委員の監査が実効的に行われることを確保するための体制

マネジメント

■リスク管理

常にさまざまなリスクをあらかじめ念頭において事業活動を行っています。それらのリスクに対応するために、事前の備えと事後の措置として、各種規程を定め、リスクを最小限のものにするために必要な社内体制を確立しています。また、大規模地震を想定した事業継続計画（BCP）に加え、インフルエンザなどパンデミックへの対応も行っています。



■コンプライアンス

「企業行動憲章」に基づいた企業活動を通じて、公正で透明性のある企業を目指すとともに、当社のステークホルダーをはじめ一般社会からの確固たる信頼を確保し、企業の社会的責任を果たしていきたいと考えています。

2006年7月制定
2013年4月改訂

企業行動憲章

私たちは、スペシャリティーケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献するためにこの企業行動憲章を定めます。私たちは、あらゆるステークホルダーとコミュニケーションを図り、社会的存在価値のある製品を提供し続けたいと考えています。

1. 私たちは、各国・地域の法令を遵守するとともに、高い倫理観をもってグローバルな事業活動を展開します。
2. 私たちは、良き企業市民として、公の秩序に従い、信義誠実な行動を行うと共に社会貢献に努めます。
3. 私たちは、会社情報を適正に管理し、適時、適切に情報開示し、公正で透明な経営を行います。
4. 私たちは、反社会的勢力とは一切の関係を遮断します。
5. 私たちは、人間の権利と人格の尊重はもとより、各国・地域の文化や慣習に配慮し、社会の発展に貢献します。
6. 私たちは、株式公開企業として、地域社会、取引先、株主、投資家、従業員との信頼と関係を大切に考えます。
7. 私たちは、環境と安全に十分配慮します。
8. 私たちは、お客様に満足して頂くため、化学技術を通じて社会に新たな価値を提供します。

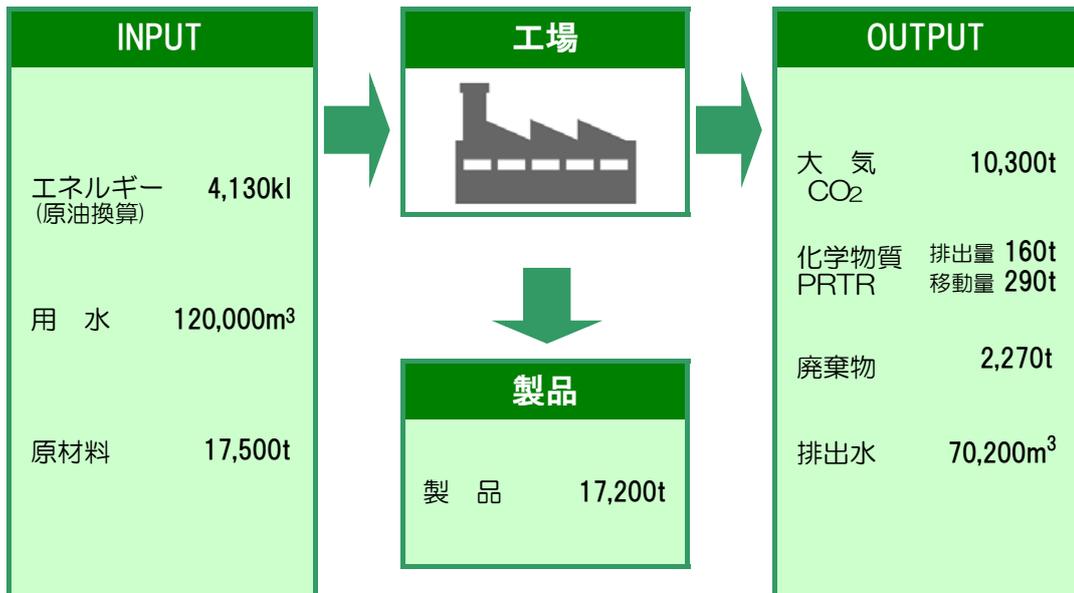
内部通報制度

より使いやすく、信頼性もより確保される仕組みを目指して、内部通報制度を運用しています。

環境への取組み

■マテリアルフロー

事業活動に伴い投入する資源やエネルギー、排出物質を定量的に把握し、環境負荷の低減や地球温暖化防止対策に役立てています。今後とも省資源、省エネルギー対策とともに、廃棄物の削減、再資源化を推進していきます。



■環境マネジメントシステム

2003年10月にISO14001の認証を取得して以来「マナック環境方針」に沿った環境への取組み計画の策定と推進を継続し、3度の認証更新をしています。

■マナック環境方針

当社は温暖な気候に恵まれた瀬戸内の地に創業し、今日まで企業活動を展開してきました。この恵まれた環境を守ることも企業の使命であり、環境保全への取り組みを経営の最重要課題の1つと認識し、企業活動を展開します。

1. 環境管理のための体制やシステムを確立し、その運営については定期的な見直しを行うと共に、継続的改善を図ります。
2. 環境保全に関する各種法令・協定等を順守し、環境汚染の予防に努めます。
3. 生産活動等において、大気への排出の抑制と廃棄物の削減に配慮した環境目的・目標を定め、その実現を図ります。
4. 省エネルギーを中心とした温暖化防止への取り組みを進めていきます。
5. 全従業員の環境に対する意識と知識の向上を図るため、積極的な教育活動を展開・推進します。



環境への取組み

■省エネルギー

当社はエネルギー管理「特定事業者」として、生産のほとんどを受け持つ「福山工場」（「第1種指定工場」）を中心に、全社において省エネルギーを推進しています。

工場(生産施設)では、熱源であるボイラーを小型高性能機の台数制御運転とし、同時に燃料を都市ガスに転換しています。一方、電力削減は、工場の原動機を中心に事務/生活系での一般電力も含めた省エネに継続して取り組んでいます。

また2011年以降は、最大需用電力（デマンド）のピークカットを重点課題とする『節電の夏』に注力しており2014年度末の契約電力は2011年9月比で6%のデマンド低減(契約電力)を持続しています。

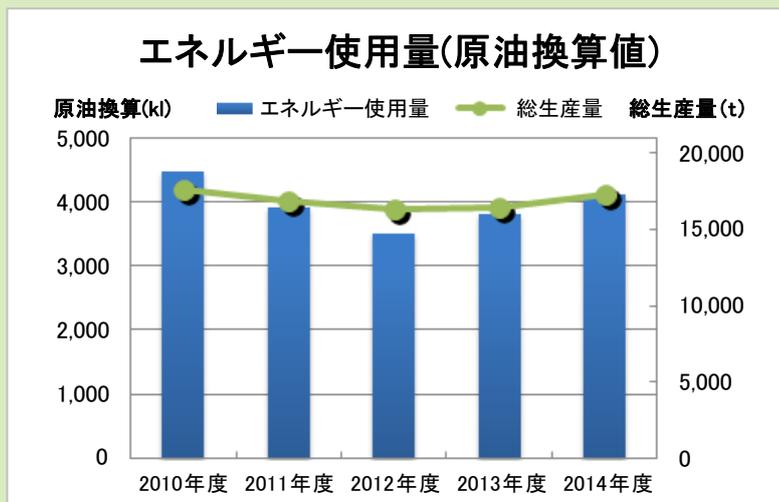
■継続中の取組み

- ・ 省エネ型冷凍機、エアコン、高効率変圧器への更新
- ・ LED電灯の導入（生産施設を含む）
- ・ 屋根の遮熱、緑のカーテン、窓の遮光等により空調の負荷ピークを緩和
- ・ クール・ビズ、ウォーム・ビズ並びに、こまめな消灯や空調停止などの節電活動
- ・ 工程時間の調整によるピーク時電力をシフト
- ・ 設定圧力（空気圧、蒸気圧）の低下による負荷低減
- ・ 冷凍機系の定期整備（熱交換部、冷却塔など）
- ・ 配管、トラップ、保温材などの自主保全活動



■エネルギー使用量の推移

需要の回復に伴いエネルギー使用量は昨年よりさらに増加しましたが、設備稼働効率が向上したことにより、基準生産量あたりの使用量は低下しています。



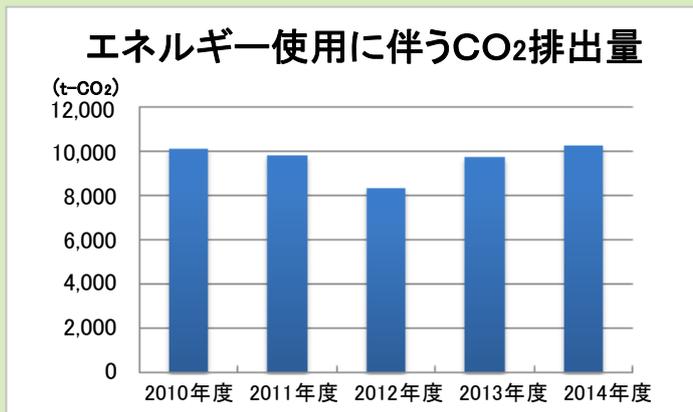
環境への取組み

■地球温暖化防止

当社の排出する温暖化ガスのほとんどはエネルギー起因CO₂です。従って、省エネ活動がそのまま地球温暖化の防止活動となります。前項に記述したボイラー効率化・燃料転換（2008年）と電力低減に注力するとともに、廃棄物発生の抑制（委託先での温暖化ガスの減少に寄与）等にも取り組んでいます。

■二酸化炭素（CO₂）排出量の推移

エネルギー使用の増加（生産量回復）に伴い、排出量は増加となりました。



■廃棄物削減

当社では、廃棄物の分別回収、溶媒のリサイクル等、廃棄物の適正な処理と再資源化に努めています。また、廃棄物の処理に関しては優良認定処理業者を選択し、3Rの推進を実施して、燃料やセメント原料への転化を行い、循環型社会の構築に貢献しています。

■廃棄物排出量の推移

2014年度は生産量の回復に伴い排出量は増加となりましたが、引き続き工程等の見直しにより廃棄物の発生抑制に取り組んでいます。

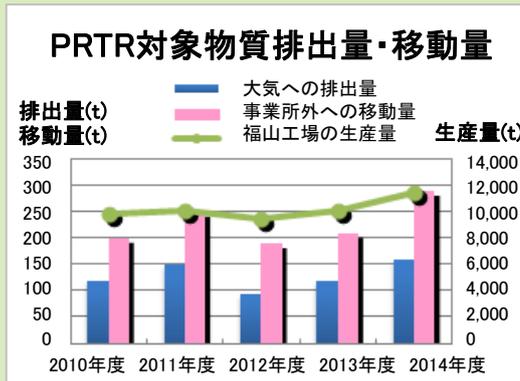


3Rとは
Reduce（リデュース：発生抑制）
Reuse（リユース：再使用）
Recycle（リサイクル：再資源化）
の頭文字をとったものです。

環境への取組み

■化学物質の排出管理

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」（PRTR法）に基づき、その対象事業所となる福山工場においては、化学物質の環境への排出量・移動量を把握しています。ISO14001システムとも連動し、環境目標活動として種々の取組みを行い、排出、移動の削減に努め、対象物質を取扱う製品の生産量あたりの排出量・移動量は減少していますが、2014年度は対象物質を取扱う製品の生産数量の占める割合が増加したため、排出量・移動量も増加しました。



■環境目標活動

- ・ 設備 : 密閉化の推進
冷却能力の向上
- ・ 工程 : 作業方法の改善
除害装置の適正使用
- ・ 取扱者 : 適切な取扱方法の教育

※PRTRとは

「Pollutant Release and Transfer Register」

人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質について、事業所からの環境（大気、水、土壌）への排出量及び廃棄物に含まれての事業所外への移動量を、事業者が自ら把握し国に対して届け出るとともに、国は届出データや推計に基づき、排出量・移動量を集計し、公表する制度です。

■環境への配慮

■環境配慮型製品「AdBlue（アドブルー）」

ガソリン車に比べて燃費がよく、省エネルギーCO₂削減の観点からディーゼルエンジンが注目されています。特に、道路輸送の主役であるトラックのディーゼルエンジンに対する環境規制は、世界的に高度な処理技術が要求されています。この対策として、国内トラックメーカー各社は窒素酸化物（NO_x）を無害な水と窒素に分解する尿素選択還元方式（SCR）を導入しており、現在は順調に拡大しています。

当社のAdBlueはドイツ自動車工業会（VDA）の厳しい品質規格に適合の後、ライセンスを取得し、環境配慮型製品として提供しています。



（アドブルー専用ローリー）

■電動フォークリフトの採用

排ガス対策として電動フォークリフトを採用し、2014年度は14台が稼働しています。

■臭素及びヨウ素の有効利用とリサイクルの推進



（電動フォークリフト）

安全衛生への取組み

■安全衛生管理体制の確立

福山工場の安全衛生方針は、「基本遵守による考動へ、「事故・災害 ゼロ」で社会に貢献」を掲げています。安全、安心の社会的な要請が高まる中で、従業員一人ひとりが安全意識を優先した安全に取り組んでいます。基本的なルール、決めたこと、決められたことは守り、その必要性（なぜ）を考え行動する。各人の自主安全考動と安全衛生グループによる自主安全衛生活動、そして工場全体の種々の先取り安全衛生活動により、事故・災害ゼロを目指し、安全第一の文化を醸成しています。

※「考動」とは、各自がよく考え、行動に移す事を言います。

■安全衛生活動

労働災害ゼロ、職業性疾病ゼロを目指し、従業員が安全で安心して働くことができる快適な職場環境を整備し、安全衛生の水準向上に努めています。

安全衛生の重点施策として4本の柱を軸とし、また安全衛生委員会と委員会内に設けたワーキンググループにより、テーマ毎に検討を行い、自主的な活動を展開しています。

■重点施策4本の柱

1. 化学物質による健康障害の防止
 - ・作業管理、作業環境管理の見直し
2. こころとからだの健康管理
 - ・目配り、気配り、声かけ 朝礼、終了時のミーティング等により実施
 - ・+one（プラスワン）活動 としてsmile（スマイル）運動「明るい笑顔のあいさつ」からを展開
3. 自主安全衛生の取組み
 - ・安全衛生グループ毎の推進と職場の活性化及び感受性の向上
 - ・ヒヤリ・ハット運動の推進
 - ・危険予知活動
 - ・KYT（危険予知トレーニング）からKYK（危険予知考動）及び指差し呼称などにより実践型へ
 - ・自部署パトロール 年間計画により実施
 - ・定例安全衛生職場会議 毎月1回以上、安全衛生グループ単位で実施
 - ・+one（プラスワン）活動
 - 5S（整理・整頓・清掃・清潔・習慣化）に加え、もう一つのSの項目を選定して活動
4. 5S活動
 - ・エブリデイ10ミニッツ清掃による5S意識の定着
 - 各自で毎日10分間清掃の実施、習慣化

■その他の安全衛生

1. ワーキンググループによるテーマ別活動
 - ・安全教育の企画（外部講師によるフォークリフト講習、他）及び安全の日の行事の推進
 - ・ヒヤリ・ハット活動の推進及び結果報告
2. 安全衛生パトロール（役員、産業医、安全管理者、衛生管理者）
3. 全国安全週間、全国労働衛生週間の行事企画推進
4. 外部関連団体との連携安全管理体制の確立



（安全衛生パトロール）



（フォークリフト講習）

安全衛生への取組み

健康の保持増進

当社では、従業員一人ひとりが健康に過ごせるよう、年2回の定期健康診断を行い、検診の結果、再検査が必要な場合や、所見がある場合には、産業医による個別のフォローを実施するなど、生活習慣病などの予防に努めています。その他、広島県の健康関連事業と連携し取り組んでいます。

- 産業医による健康管理、衛生の指導
- 産業医による心と身体の健康相談（毎月）
- 日常生活改善指導による健康への支援
- 衛生講習会「食と心と体の健康」開催
- 季節要因による流行疾患の情報（毎月）
- 産業医職場巡視 衛生面、健康面を重点的に指導及び指摘（毎月）

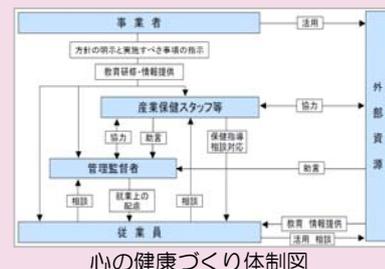
心の健康づくり

メンタルヘルス対策として、全従業員を対象とした「心の健康診断」メンタルヘルス研修を実施し、心と身体の健康管理に取り組んでいます。

心の健康づくり計画

心の健康づくり計画を、2014年1月1日に策定し運用しています。

従業員とその家族の幸福な生活のために、また事業場の生産性及び活気のある職場づくりのために重要な課題であり、メンタルヘルス不調への対応だけでなく職場のコミュニケーションの活性化などを含めて広い意味での心の健康づくりを推進しています。



心と身体の健康づくり、明るい職場環境の推進

社外専門家のケアによる、家族を含めた心の健康診断相談の窓口を設置しています。

メンタルヘルス講習会

全従業員を対象として、外部講師によるメンタルヘルスの講習会を開催しました。演題は「コミュニケーションについて考える」と題して行われ、職場内においても人と人のつながり、日常的な会話、挨拶など気軽に声を掛け合える環境づくりにより、良い人間関係が築けてストレスを緩和することなどを、改めて再認識することができる講習会となりました。



(産業医による衛生講習)



(メンタルヘルス講習会)

安全衛生への取組み

■保安・防災

■防災訓練

工場では、危険物施設や薬品保管施設などでの事故発生（火災・爆発、漏洩）を想定した対応訓練を繰り返し実施し、防災に関する継続的なレベルアップに努めています。さらに、自然災害（地震、津波）想定訓練と緊急用資材・備蓄品等も定期的に確認し、BCPの一環としております。



【近年の防災訓練実施状況（福山工場）】

年月	事故想定
2010年 6月 10月 11月 3月	設備破損・薬液、ガス漏洩 強い地震時の初期行動 薬液配管破損・漏洩 地震→配管破損・漏洩「消防合同防災訓練」予行演習
2011年 5月 11月	地震→薬液配管破損・漏洩「消防合同防災訓練」 大地震～津波時の退避訓練（近隣高台への移動）
2012年 5月 10月 11月	薬液移送ポンプ破損・漏洩 地震～津波時の退避訓練Ⅱ（場内高所への移動） 危険物火災
2013年 6月 11月 3月	設備破損・薬液、ガス漏洩 薬液配管破損・ガス漏洩 （同上）指揮・連絡訓練
2014年 9月 11月	薬液配管破損・漏洩 異常反応によるガス発生

■化学物質安全・物流安全

便利で快適な私たちの生活は、さまざまな化学物質に支えられていますが、これらの化学物質は多くの法令などにより規制されています。各種法令を遵守し、安全な取扱いを心掛けるとともに、SDS、ラベル、イエローカード等により、お客様や物流関係の方にも情報を提供しています。

■GHS対応

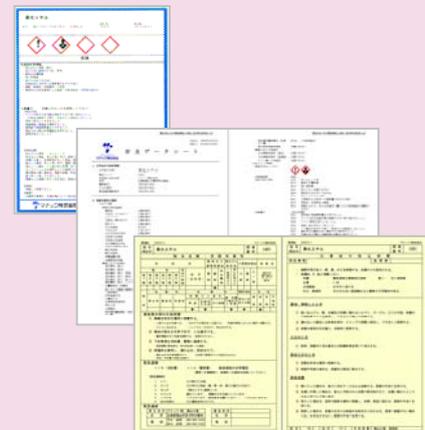
化学品の分類及び表示に関する世界調和システム（GHS）に基づいて、化学品の危険有害性を一定の基準に従って分類し、絵表示などを用いて分かり易く表示したラベルへの対応

■SDS（安全データシート）による情報提供

化学品の安全な取り扱いを確保するために、化学品の危険有害性等に関する情報を記載した文書SDS（安全データシート）をお客様に提供するとともに、社内の担当者にも通知し、取扱い時の注意喚起を促しています。
GHS、JIS等の最新版への移行を進めています。

■イエローカード

万が一の輸送中の事故に備え、物流安全指針に沿って、運転手や消防・警察などの関係者が取るべき処置を記載した緊急連絡カード「イエローカード」を作成し、輸送中の注意喚起を促しています。



社会との関わり

■ 郷分事業所 優良危険物事業所表彰

2014年5月13日、福山地区危険物安全協会より優良危険物事業所の表彰を受けました。

危険物を取り扱う事業所として、長年施設の維持管理に細心の注意を払い、災害防止に努めてきたことが評価されました。

今後も安心・安全な地域社会を目指して取り組んでいきます。



(定例会)



(表彰状)

■ 地域行事への参加

地域行事等に参加し、環境推進・防災体制などの情報を共有することで、地域への貢献活動を実施しています。

【環境改善対策／会員相互の啓発親睦】

- ・ 街路灯管理……定期的な保全の推進
- ・ 放浪犬対策……愛護センターと連携した保護活動の実施
- ・ 各種競技会への参加



(工業団地ボウリング大会)



(福山地区出初式)

■ 環境美化活動

本社・福山工場周辺道路のペットボトル、空き缶、タバコ、不燃物のゴミ回収と、草とり、清掃を定期的に行っています。今後も活動を通じて地域の環境美化活動に努めていきます。



(公共道路清掃)



(社内美化)

■ 環境推進運動

「第5回 ニチバン巻心ECOプロジェクト」に参加しました。この取組は、CO₂の排出削減とマンガロープの植樹活動に役立てられています。

その他にも、エコキャップ推進運動に参加しました。PETボトルキャップの回収を行い、集まったキャップ約4,700個(重量10.9kg)は、ポリオのワクチン代に使われています。



(ECOプロジェクト)



(エコキャップ推進運動)

薬事功労者表彰 受賞

■薬事功労者厚生労働大臣表彰式

平成26年10月 厚生労働省講堂にて、薬事功労者厚生労働大臣表彰式が開催され、弊社代表取締役社長の杉之原祥二が受賞しました。

平成9年に広島県製薬協会の理事に就任以降、副会長、会長として会の運営に積極的に貢献し関係団体と協力して県民の保健衛生向上に尽力してきたことが功績として認められたものです。

製薬協会GMP技術委員会の活動については、製薬協会の重要事業と位置づけ、積極的に活動を推進し、また、広島大学との産学連携や新規事業の創出にかかわり、生命関連産業商品の国産化に尽力し、特に、広島県の産業発展を目的として設立された、「(財)ひろしま産業振興機構」においては、技術委員会委員として積極的に提言をしております。

これらのことが、品質管理及び製造管理に係る資質向上やコンプライアンス実践の推進と地域産業の活性化のために大きく貢献したとの評価をいただきました。



平成26年度 薬事功労者厚生労働大臣表彰式
(代表取締役社長 杉之原 祥二 後列左から5人目)

